



高槻ロータリークラブ
2023~2024
WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるかどうか

事務所 〒569-1116 高槻市白梅町 4-1 高槻阪急 6階
 TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174
 URL <http://www.takatsukirc.org/>
 E-mail takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp
 例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
 例会場 高槻阪急 6階 多目的ホール TEL 072-684-5379
 創立 1954年6月15日
 会長 河合一人 幹事 松下浩章 クラブ運営委員長 内本繁 会報担当副委員長 小阪大輔

No.16 2023年11月1日 発行

11月はロータリー財団月間

第3339回 本日(11/1)の例会

- ◎ 国歌・・・君が代
- ◎ ソング・・・奉仕の理想
- ◎ 誕生、結婚、入会記念月御祝
- ◎ 創業記念月御祝
- ◎ 外部卓話
 第2660地区 ロータリー財団委員会
 資産管理小委員会 委員 山室 匡史様
 「ロータリー財団と
 ポリオプラスについて」
- ◎ 例会後の行事
 11月度定例理事会

第3340回 次週(11/8)の例会

- ◎ ソング・・・四つのテスト
- ◎ 外部卓話
 第2660地区 米山奨学委員会
 委員 中西 美代子様
 「米山奨学委員会 委員になって」
- ◎ 例会後の行事
 指名委員会

先週(10/25)の例会から

◎ゲスト・ビジター 計 0名

◎出席報告

会員数	出席者数	出席率
46名	32名	74.42%
前々回例会補正後出席率		84.44%
但し、Mup 3名		欠席者 7名
出席規定適用免除有資格者		1名

11月度 記念月御祝

- ◎ 誕生記念
 川面 智義君 西本恵美子君
 浜田 厚男君 山田 裕介君
- ◎ 結婚記念
 浜田 厚男・寿絵御夫妻 35周年
 三井 泰之・忍御夫妻 35周年
- ◎ 入会記念
 光本 智輝君 7周年
 芦田 泰弦君 1周年

11月度 創業記念月御祝

- 藤松 功治君 マス星自動車(株)
S. 38. 11 60周年
- 江澤 由君 (株)装英
S. 43. 11. 18 55周年
- 芦田 泰弦君 ABC 薬局
S. 43. 11 55周年
- 井前 憲司君 井前工業(株)
S. 45. 11 53周年
- 伊藤 智秋君 (株)エス・ジー
H. 3. 11. 7 32周年
- 松尾 浩君 (株)セラフィー
H. 4. 11. 30 31周年

世界に希望を生み出そう

ゴードンR. マッキナリー RI会長

◎会長の時間

普段・私達が何気なく使っている言葉の中に「打合せ」や「打上げ」といったものがあります。実は、これらの語源にもれっきとした由来があって、古式ゆかしい意味がある様です。

先ず「打合せ」についてですが、日本の伝統芸能では、笙（しょう）や箏（ひちりき）、笛等の管楽器、そして、琵琶や三味線、琴等の弦楽器、更には、太鼓や鉦鼓（しょうこ）或いは、鞆鼓（かっこ）と言った打楽器を用いて、演奏が行われていますが、その際には、楽器全体でリズムを合わせる必要が出てきます。その役割を果たしているのが、打楽器の鞆鼓です。全体のリズムを決め、合図を送って指揮者的な役割をなす事から、この鞆鼓を打って合わせる事が転じて、事前に相談する意味の「打合せ」と言う言葉が生まれています。

一方、一仕事終わって、さあ飲みにも行こうかと言う時に「打上げに行こう」と表現します。この言葉の由来は、歌舞伎の世界を発祥としています。ご承知の様に、歌舞伎・最大の見せ場は、「見得を切る」場面ですが、幕切れ寸前のクライマックス時に、主役が大見得を切るのが通例です。この時、音楽と併せてその場面を盛り上げるのですが、この音楽の事を「打上げ」と言うそうです。それが転じて、「一区切りついて盛り上がる」と言う宴席等を「打上げ」と呼ぶ様になっています。

さて、皆さんは「十三夜」をご存じでしょうか？
今年の「十三夜」は、二日後の10月27日・金曜日です。よく知られているのは「十五夜」で、中秋の名月とも呼ばれていますが、十三夜は、それに次いで美しい月とされています。十五夜は、旧暦の8月15日の夜、そして十三夜は、旧暦の9月13日の夜をいいます。十五夜が、中国伝来の風習で、月の神様に豊作を願うのに対し、十三夜は、日本で始まった風習で、稲作の収穫を終える地域も多い事から、秋の収穫に感謝しながら、美しい月を愛（め）めます。時計がない昔の時代は、月の満ち欠けを用いて暦を計算する「旧暦」を用いていた為、人々の生活と月は密接に繋がっていました。十三夜の月見の始まりについては、色々と諸説がありますが、平安時代に醍醐天皇が、「月見の宴を開催し、歌を詠んで楽しんだのが始まりではないか」という説が、専ら代表的です。

日本では古くから、四季折々の自然を感じながら暮らしてきました。秋の澄んだ空気の中、綺麗な月を見上げて、秋の實りに感謝する。月見の習慣には、そんな意味合いが込められています。時は巡って、日々の忙しさに追われている現代ですが、ふと立ち止まって、夜空を見上げてみる。二日後の「十三夜・後の月見」には、そんな心休まる一時を、過ごす事が出来れば幸いです。

◎幹事報告

・本日はございません。

◎委員会報告

○社会奉仕委員会

飯田 哲久

・10/22(日)の献血活動に当クラブから16名・高槻中学高等学校 IAC から16名の合計32名の皆様にご参加頂きました。西本会員と中西会員は同日開催のポリオデーのイベントに参加された後、献血活動にご参加下さいました。沢山の皆様のご参加ありがとうございました。

◎例会後の行事（秋の親睦会）

【開催】大阪城西の丸庭園 大阪迎賓館 例会後
【参加者】34名（会員32名・ご家族1名・事務員1名）





◎藤井会員より

- ・高槻ロータリークラブ会員が多数参加している写真クラブ「凜の会」作品展が無事終了いたしました。会期中は多数のご来場をいただきありがとうございました。今回は、毎日新聞配達所のミャンマーの研修女性3名が来場され、たまたま山室さんのお知り合いであるリコーダー奏者がおられましたので、写真とのコラボで日本の歌を演奏いただきました。また日赤高槻病院から、緩和ケア病棟に作品の展示の依頼を受けました。このように「凜の会」の活動も、国際奉仕、社会奉仕の一助になったのではと思います。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

